

世界 LNG 動向#104 2024 年 8 月

橋本裕*

はじめに

日本は 2024 年 1-7 月に 3803 万トンの LNG を輸入した。年初来の累計 LNG 輸入は、初めて前年同期を上回った。中国の 2024 年 1-7 月累計の LNG 輸入量は 4383 万トンと前年同期比 12%増加となったが、2021 年 1-7 月累計を 3%下回った。パイプラインガス・LNG 合計では、2024 年 1-7 月累計輸入量は 7544 万トンと、前年同期比 13%増で史上最高となった。

ExxonMobil 社は、2024 年 8 月上旬、米テキサス州 Golden Pass LNG プロジェクト日程に 6 ヶ月の遅延を見込む、と述べた。従来は 2025 年半ばに LNG 生産が見込まれていた。今回の遅延は、EPC 建設請負連合企業中の 1 社が撤退したことと関連している。残りの 2 社が撤退する会社分を引き受けることでプロジェクト推進者側と合意した。

DC 連邦控訴審は、2024 年 8 月上旬、Texas LNG Brownsville プロジェクト、Rio Grande LNG プロジェクトの FERC (連邦エネルギー規制委員会) による承認を無効とする判断を下した。追加の環境調査を FERC が履行しなかったことを理由としている。

Rio Grande LNG プロジェクトを推進している NextDecade 社は、同プロジェクト第 1 段階を日程通り・予算内で実現し、第 4・5 系列の FID が不当に遅れることがないように、あらゆる法的・規制手続きをとるとしている。第 1 段階建設工事は継続している。

スポット LNG・ガス価格は、2024 年 8 月下旬時点で、アジアスポット LNG は 100 万 Btu 当たり 13 ドル台、欧州大陸スポットガス価格は同 12 ドル台と、両価格とも 7 月初時点から 2 ドル程度上昇した。原油価格の相対的安定と好対照をなしている。一部 LNG 生産設備の計画外停止、建設中の LNG 生産プロジェクトの稼働開始時期への不安感が、次の北半球冬季に向けて価格を押し上げる要因となっている。ウクライナ経由の欧州向けロシア産パイプラインガス輸送契約の先行き不安に加え、ウクライナ軍のロシア領内への侵攻により、唯一残された輸送経路の拠点が軍事紛争領域にあることも価格下支え要因である。

[アジア太平洋]

西部ガス株式会社は、2024 年 8 月 5 日、Tree Energy Solutions Belgium B.V. (TES) 社と、e-methane に関する包括連携覚書を締結したことを発表した。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

株式会社商船三井 (MOL) は、2024 年 8 月 20 日、三井海洋開発株式会社 (MODEC) の普通株式 89,500 株の市場での買い付けを完了し、2023 年 6 月に取得済みの 10,162,300 株と合わせて同社への出資割合を 15.00%としたことを発表した。本取得をもって商船三井は三井海洋開発の単独筆頭株主となる見込みであり、持分法適用関連会社とするとした。

株式会社商船三井 (MOL) は、2024 年 8 月 2 日、韓国ハンファオーシャン社と開発・設計に取り組んでいる、ウインドチャレンジャー (硬翼帆式風力推進装置) を搭載したメンバー型 LNG 運搬船について、一般財団法人日本海事協会から、基本設計承認 (AiP) を取得したことを発表した。

NBS (中华人民共和国国家统计局) は、2024 年 8 月 15 日、自国の天然ガス生産が、2024 年 1-7 月、1436 億 m³、前年同期比 6.2%増となったことを明らかにした。7 月の天然ガス生産は前年同月比 7.9%増の 200 億 m³に達した。中国の 2024 年 7 月の LNG 輸入量は 590 万トン、前年同月比 1.1%増、1-7 月累計は 4383 万トンと前年同期比 11.8%増加となった。2021 年 1-7 月累計を 3%下回った。パイプラインガス・LNG 合計では、2024 年 1-7 月累計輸入量は 7544 万トンと、前年同期比 12.9%増で史上最高となった。

Sinopec (中国石化) は、2024 年 8 月 1 日、北京でエネルギー・化学工業チェーンカーボンフットプリントアライアンス設立を発表した。Sinopec、CNPC (中国石油集団)、CNOOC (中国海油) など 8 社が推進、2027 年までに改善された計算メカニズムとともに、カーボンフットプリント管理システムを確立するとしている。

タイ B.Grimm Power 社は、2024 年 8 月 27 日、LNG カーゴ 1 件を輸入し、小規模発電事業会社 (SPP) 向けに民間企業として最初の LNG 輸入となったことを発表した。初期段階で自社のコンバインドサイクルコージェネレーション設備 10 件に供給するとしている。

Excelerate Energy 社は、2024 年 8 月 7 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、同年 6 月、自社はベトナムの民間開発企業 ITECO Joint Stock Company と、同国ハイフォン市での LNG 輸入基地開発基本合意を締結したことを明らかにした。Northern Vietnam LNG Terminal (NVLTL) 基地は、2 段階で輸入容量年間 120 万トンを有する見込み。第 1 段階年間容量 70 万トンは、2027 年稼働開始が期待される。

Eni 社は、2024 年 8 月 23 日、インドネシア当局が Geng North ガス田 (North Ganal PSC)、Gehem ガス田 (Rapak PSC) 開発計画 (POD) を承認したことを発表した。両ガス田統合開発により、Kutei 地域に Northern Hub という新たな生産ハブを創出することを計画している。同国当局はまた Gendalo&Gandang ガス田 (Ganal PSC) POD も承認した。さらに Eni 社は、Ganal・Rapak の IDD ライセンスの 20 年間延長を認められている。

株式会社 INPEX の、2024 年 8 月 8 日、自社同年第 2 四半期業績報告資料によると、インドネシア Abadi LNG プロジェクトについて、2030 年頃の生産開始に向け、FEED (基本設計) の開始及び FID (最終投資決定) に向けた活動を継続しており、陸上・海上の地盤調査・物理探査、FEED 実施に向けた入札活動が開始済みとなっている。CCS 導入により、同ガス田の生産ガスに付随する CO₂ の全量を削減予定としている。

インド Swan Energy 社は、2024 年 8 月 14 日、証券取引所 NSE India (National Stock Exchange of India Limited) への提出資料にて、FSRU Vasant One (浮体貯蔵・気化設備) における自社持分についてトルコ Botas 社に売却する計画を明らかにした。提出資料によれば、この取引は今後 6 ヶ月間以内に完了見込みとなる。本 FSRU は貯蔵容量 180,000 m³ を持ち、韓国現代重工業が建造し、2020 年 Swan 社に引き渡された。しかし Swan 社のグジャラート州での LNG 輸入基地プロジェクトが実現しなかった。Swan 社子会社 Triumph Offshore 社が当該 FSRU の 51%を持ち、Indian Farmers Fertiliser Cooperative (IFFCO) が残りを保有している。

インド Petronet LNG (PLL) 社は、2024 年 8 月 20 日、スリランカ LTL 社との間で、コロンボ Kerawalapitiya の LTL 社の複合燃料型発電設備向けに、PLL 社 Kochi LNG 基地からの LNG 供給に関して MOU (覚書) を締結したことを発表した。供給は LNG ISO タンクコンテナで、複数の輸送方法で実施される。当初の供給期間は 5 年間となる。

Shell、PetroChina (中国石油) (50/50) が所有する豪 Arrow Energy 社は、2024 年 8 月 12 日、27 年間の Surat Gas プロジェクト (SGP) のクイーンズランド州マイルズ北東地域への拡張 (SGP North) 計画を発表した。この開発は、追加のガス量として日量 130 テラジュール (TJ) (年間 87 万トン) を長期契約・国内顧客向けにもたらすこととなる。この拡張は、プロジェクト期間中に 4000 ペタジュール (PJ) (7350 万トン) 以上のガスを生産する能力を持つ SGP 開発の一環である。SGP North 建設は 2024 年開始予定で、2 段階に渡ってインフラストラクチャーとして最大 450 本の新規ガス生産井、新規ガス田コンプレッサーステーション 1 件、パイプライン 27km、道路・インフラストラクチャー増強を含むこととなる。

東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社、東邦ガス株式会社は、2024 年 8 月 21 日、豪 Santos 社と、豪州 Cooper 地域 Moomba での e-メタンの製造・輸出に向けた詳細検討 (Pre-FEED) 実施に関する覚書を締結したことを発表した。2025 年 3 月までの期間で、技術や制度、商務に関する検討を 4 社共同で実施し、2030 年以降に年間約 13 万トン (都市ガス約 1.8 億 m³分) 以上の e-メタンを製造・日本に輸出することを目指すとしている。

豪 Santos 社 2024 年上半期報告 (2024 年 8 月 21 日) によると、Moomba CCS プロジェクト第 1 段階はコミッショニングが進展、パイプラインは昇圧されつつありまもなく CO₂ がシステムへと導入される。2024 年中に注入開始、全容量に達する予定通り。Moomba CCS 第 1 段階は世界でコストが最も低い CCS プロジェクトのひとつとなり、年間 170 万トンの二酸化炭素を恒久的に貯蔵できる容量を持つものとなる。

Chevron 社は、2024 年 8 月 22 日、自社子会社 Chevron Australia New Ventures 社 (オペレーター)、Woodside Energy 社が、ウエスタンオーストラリア州沖 Northern Carnarvon 盆地 G-18-AP 温室効果ガス評価許可を受けたことを発表した。Chevron 社が操業する Wheatstone 天然ガス設備が立地するオンスロー沖にあり、領域は 8,467 km²、水深は 50 - 1,100 m である。Chevron 70%、Woodside 30%を有する。Chevron は韓国

GS Caltex (GSC) 社に出資分の 5%を譲渡することに合意している。GSC 参画は、規制承認等の条件付きである。G-18-AP 許可区域は、Chevron 操業の LNG 資産からのものを含む第三者の排出を貯蔵するハブの一環として評価されることとなる。

豪 Woodside Energy 社は、2024 年 8 月 27 日、上半期業績報告にて、NWS (North West Shelf) プロジェクトは生産減少の期間に入りつつあり、操業費・排出の管理のために、LNG 液化設備 1 系列を 2024 年末から 2025 年半ばの期間中に停止する準備をしている、と述べた。KGP (カラサガス設備) 長期操業・将来の第三者ガス処理を支援する NWS プロジェクト延長に関する州・連邦の規制承認手続きは進行中である。Woodside はオペレーターとして、NWS プロジェクトの 33.33%を保有している。

豪 Woodside Energy 社は、2024 年 8 月 19 日、Australian Conservation Foundation (ACF) との間で、Woodside 社 Scarborough Energy プロジェクトへの環境承認に対する ACF 訴訟の取り下げで合意したことを発表した。Scarborough プロジェクトは全ての環境承認を取得済みで、洋上作業は進行中である。前記連邦法廷での審理は、同プロジェクト洋上作業の停止を求める仮処分を求めている。両者は審理の却下を法廷に求めることで一致した。ACF は、Environmental Defenders Office が代表しており、2022 年 6 月、同プロジェクトの洋上環境影響評価に関して、連邦法廷での審理を提起した。

豪 Woodside Energy 社は、2024 年 8 月 27 日、上半期業績報告にて、ウエスタンオーストラリア州 Scarborough Energy プロジェクトは 3 分の 2 以上完成し、2026 年最初の LNG カーゴ出荷に向け予定通りとなっている、と述べた。この完成率に Pluto 第 1 系列改造プロジェクト分は含んでいない。Scarborough 浮体生産設備建造は、上部構造に関して機械工事が完了した。Pluto 第 2 系列現場工事は進行しており、51 モジュール中 29 件は引き渡しを受け、25 件が設置済みである。同社は、Scarborough 合弁事業 (SJV) 中、10%の非操業担当持ち分 10%について LJ Scarborough 社 (エルエヌジージャパン社) に 9.10 億米ドルでの売却が完了し、さらに 15.1%、JERA 社への売却に関して、拘束力ある SPA (売買契約) を締結した。Woodside 社は Scarborough についてオペレーターとして 90%を持ち、Pluto 第 2 系列は 51%所有している。Woodside 社 90%は、JERA への 15.1%売却完了前の数字である。長期 LNG 供給契約が韓国ガス公社 (Kogas)、台湾中油 (CPC) と締結された。Woodside 社は、7月の Tellurian を Driftwood LNG プロジェクト含めて買い取る合意について、自社の LNG ポートフォリオ強化を目的としたもの、と述べた。

株式会社 INPEX は、2024 年 8 月 20 日、子会社 INPEX Browse E&P 社を通じて、2022 年豪州海上探鉱区公開入札にて、操業主体 (オペレーター) として単独でウエスタンオーストラリア州沖合に位置する探鉱区 (AC/P71) を落札したことを発表した。鉱区面積は約 920 km²、水深は 100 m - 300 m の海域にある。同社が 2023 年に 74%の権益を取得した、既に天然ガス・コンデンサート田が発見されている AC/RL7 鉱区と隣接している。

豪 Santos 社 2024 年上半期報告 (2024 年 8 月 21 日) によると、Barossa ガスプロジェクトは 80%完成近くまで進捗し、2025 年第 3 四半期にガス生産を見込む。同ガス田から

Darwin LNG 設備へのガス輸送パイプラインは完成した。Barossa 第 3 井掘削は成功し資源層の反応は予想を上回る結果となっている。浮体生産、貯蔵、積み込み船舶は、2025 年第 1 四半期豪州に向かう予定通り進捗している。Barossa は全面稼働時年間 180 万トン Santos 社 LNG ポートフォリオに加える見込み。

[北米]

米国の LNG 業界団体 LNG Allies は、2024 年 8 月 1 日、連邦議会上院エネルギー・天然資源委員会が 7 月 31 日、上院法案 S. 4753 2024 年許可承認改革法案を 15-4 で採択したことを指摘した。同法案は、DOE (米連邦エネルギー省) による LNG ライセンシング手続きに 90 日間の期限を設定している。同法案は DOE が迅速に処理することを義務付け、公式、非公式の性質を問わず将来の LNG 停止措置を除外している。バイデン政権は 2022 年 3 月から 2023 年 3 月の 1 年間にしか米国産 LNG 輸出許可を出さなかった。それ以降、動くことを拒絶している。LNG Allies は「公式の 'pause' は 2024 年 1 月 26 日政権により設定されたが、非公式なモラトリアムが 18 ヶ月間続いている」と述べた。

Cheniere Energy 社は、2024 年 8 月 5 日、子会社 Cheniere Marketing 社が Galp Energia, SGPS 子会社 Galp Trading 社との間で長期 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。Galp 社は、年間 50 万トンの LNG を 20 年間、Cheniere Marketing から FOB (本船渡し) 条件、ヘンリーハブ価格連動の価格プラス固定液化手数料により購入することに合意した。引き渡しは 2030 年代初頭より開始見込みで、Sabine Pass 液化拡張プロジェクト (SPL 拡張プロジェクト) 第 2 系列 (第 8 系列) FID (最終投資決定) が条件となる。本 SPA は、第 8 系列稼働開始前に、Galp が購入する限定数量の早期カーゴが含まれる。SPL 拡張プロジェクトはデポトルネッキング機会も含めた LNG 容量年間最大 2000 万トンにて開発中である。2024 年 2 月、Cheniere Energy Partners 社複数の子会社が、FERC (連邦エネルギー規制委員会) に SPL 拡張プロジェクト立地、建設、操業承認を申請、DOE (連邦エネルギー省) に自由貿易相手国 (FTA)、非 FTA 国向け LNG 輸出承認申請を行った。

Cheniere Energy 社は、2024 年 8 月 8 日、同年第 2 四半期業績報告の中で、CCL プロジェクト隣接で 7 ミッドスケール液化系列により総生産容量 LNG 年間 1000 万トンを超える CCL ステージ 3 拡張プロジェクトを建設しており、6 月 30 日時点で 62.4% 完成していると述べた。その最初の系列から LNG 生産開始は、2024 年末までに期待される。CCL ステージ 3 プロジェクト隣接で、年間 300 万トン (CCL ミッドスケール第 8 & 9 系列プロジェクト) 合計 2 系列を開発している。2023 年 3 月、子会社数社により、同プロジェクト立地・建設・操業許可を FERC (連邦エネルギー規制委員会) に申請した。2023 年 4 月、FTA・非 FTA 諸国向け輸出許可を DOE に申請した。2023 年 7 月、DOE から FTA 諸国向け LNG 輸出承認を受けた。2024 年 6 月、FERC から肯定的な EA (環境影響評価) を受けた。残りの規制承認を全て、2025 年に受領することを見込んでいる。

Freeport LNG 社は、2024 年 8 月 15 日、FERC (連邦エネルギー規制委員会) に、既存前

処理設備併設のヘリウム採集・純化設備 Noble ガスプロジェクトの期間延長申請通知を提出した。

千代田化工建設株式会社は、2024 年 8 月 8 日、米国の自社グループ会社 Chiyoda International Corporation (CIC) と、テキサス州 Golden Pass LNG プロジェクトに関して、ジョイントベンチャーパートナーである米国 CB&I LLC (CB&I 社) が、8 月 7 日 (米国時間) 付にて、Golden Pass LNG Terminal LLC (GPX 社) より、Zachry Industrial 社が担当していた建設工事を両社が引き継いで再開するための「短期的な遂行プラン」に関する正式発注を受けたことを発表した。千代田化工は、8 月 14 日、7 月 25 日 (米国時間) 付の現地裁判所による Zachry 社の本プロジェクトからの離脱に関わる基本合意書の暫定承認に引き続き、8 月 12 日 (米国時間) 付にて、最終承認がなされたことを明らかにした。同裁判所による最終承認に基づき法的な制限が解除されたことより、CB&I LLC・CIC 社はこれまで継続して進めてきた GPX 社との協議を加速させ、本プロジェクト全体の完工までの遂行に関する取決め「長期的な遂行プラン」に関わる早期の EPC 契約 (設計・調達・建設工事請負契約) の改定・合意を目指すとしている。

ExxonMobil 社は、2024 年 8 月 2 日、2024 年第 2 四半期業績説明会にて、Golden Pass LNG プロジェクト日程に 6 ヶ月の遅延を見込む、と述べた。同社は 2025 年半ばに LNG 生産を見込んでいた。恐らく LNG 生産開始は 2025 年末になるとみている。

bp 社は、2024 年 8 月 14 日、Venture Global LNG 社がその Calcasieu Pass LNG プロジェクトの商業生産を開始するためにこれ以上の時間は必要ない、と述べた。2024 年 7 月 25 日、本件の行政法首席判事が、保護命令を採用する命令を下した。BP Gas Marketing 社は Venture Global Calcasieu Pass, LLC (VGCP) 社が承認された保護命令下で封印されて状態で提出した文書の内容を確認した。bp 社は、承認指令に従い VGCP 液化設備を本業に利用可能とするための期限は全く必要ないとの見解を強調した。プロジェクトのターム契約買主数社が、8 月 21 日までに、同社の液化設備を営業稼働させる期限を延長する申請を承認しないことを FERC (連邦エネルギー規制委員会) に求めた。

Venture Global LNG 社は、2024 年 8 月 13 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) への提出文書にて、自社 2 件目の LNG プロジェクト Plaquemines LNG が建設の 80% 近く完了し、この秋の LNG 生産、その後直ちに商業運転前段階の条件での LNG 輸出開始を目標としていることを明らかにした。Venture Global 社は、これより以前の規制提出文書で、Plaquemines LNG は早ければ 8 月にも LNG 生産開始の可能性があるとしていた。Venture Global LNG 社は、Plaquemines 設備にて、8 月 26 日までに最初のコミッショニング用カーゴを積載した LNG 輸送船舶を受け入れた。

NextDecade 社は、2024 年 8 月 5 日、子会社 Rio Grande LNG Train 4 社が一括請負 EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を Bechtel Energy 社との間で、Rio Grande LNG 設備第 4 系列・関連インフラストラクチャー建設に関して締結したことを発表した。Rio Grande LNG Train 4 社は第 4 系列 EPC 契約下の作業に関して Bechtel に約 43 億米ドル

支払うことに合意している。同契約価格の有効期間は 2024 年 12 月 31 日までである。NextDecade 社は現在、建設期間中のオーナー側コスト、予備費、金融手数料、利息合計で 17 - 19 億米ドルと見積もっている。第 4 系列・関連インフラストラクチャー合計の見積コストは 60 - 62 億米ドルで、建設中の 3 系列第 1 段階の 1 系列当たりのコストと沿った線となっている。NextDecade 社は引き続き 2024 年後半を第 4 系列 FID (最終投資決定) 目標としている。

DC 連邦控訴審は、2024 年 8 月 6 日、Glenfarne Energy Transition 社傘下 Texas LNG Brownsville 社による Texas LNG Brownsville プロジェクト、NextDecade 社が推進する Rio Grande LNG プロジェクトの FERC (連邦エネルギー規制委員会) による承認を無効とする判断を下した。Texas LNG、Rio Grande LNG 承認を再発行した際、それより先になされた同法廷による差し戻しの際に指摘された環境問題、大気品質の問題に対応する追加の環境調査を実施しなかったことで、連邦環境政策法 (NEPA) 下の義務を FERC が履行しなかった、と同法廷は判断した。NextDecade 社はこの法廷判断に失望を示すとともに、その結論に反対する、と述べた。現時点で Rio Grande LNG 設備最初の 3 液化系列・関連インフラストラクチャー (第 1 段階) の建設は継続している。NextDecade 社今回の法廷判断の第 4 系列の FID (最終投資決定) 時期に対する影響を検討している。

NextDecade 社は、2024 年 8 月 14 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) による Rio Grande LNG 設備の差し戻し承認を無効とする最近の連邦 D.C. 巡回控訴審の判断に同意していない、と述べた。同社は、同プロジェクト第 1 段階を日程通り・予算内で実現し、第 4・5 系列の FID が不当に遅れることがないように、あらゆる法的・規制手続きをとることを決意している。2024 年 8 月、連邦 D.C. 巡回控訴審は、Rio Grande LNG 設備に関して、FERC は差し戻し審査プロセスの期間中に、追加的な環境影響評価 (EIS) を発行すべきだったとの根拠で、FERC 差し戻し審査承認を無効とする指令を発した。同法定判断は、同法定がその趣旨の実行指令を発行するまで、発効しない。上告手続きが完了するまで、実行指令は見込まれていない。Rio Grande LNG 設備の最初の 3 系列および関連インフラストラクチャー (第 1 段階) 建設は継続している。

NextDecade 社は、2024 年 8 月 20 日、子会社 Rio Grande LNG 社が、Rio Grande LNG 設備での CCS プロジェクト計画について FERC (連邦エネルギー規制委員会) 申請を取り下げ、手続き停止を要請したことを発表した。

Chevron 社は、2024 年 8 月 12 日、メキシコ湾 Anchor プロジェクトで、高圧海底技術を用いて生産を開始したことを発表した。Anchor 半潜水型浮体生産設備は、原油日量 75,000 バレル、天然ガス日量 28 mcf (100 万立方フィート) の設計容量を持つ。

JOGMEC は、2024 年 8 月 13 日、米国エネルギー省 (DOE) 傘下の国立エネルギー技術研究所と協働で、アラスカ州において 2023 年 9 月 19 日 (現地時間) より実施していたメタンハイドレート層からのガス産出試験を 2024 年 7 月 30 日 (現地時間) に終了したと発表した。生産したガスは、試験設備の発電機や蒸発器等の燃料として自家消費し、メタンハ

イドレート層から生産したガスを世界で初めてエネルギー源として使用したとした。

Excelerate Energy 社は、2024 年 8 月 8 日、自社同年第 2 四半期業績投資家向けプレゼンテーションの中で、アラスカ州 Cook Inlet LNG 受入基地プロジェクトを明らかにした。Excelerate はクック湾南側地域に FSRU に基づく LNG 輸入基地開発に関して、アラスカ州南中部の地域公益事業企業との話し合いが進展しているとのこと。地元ガス生産の減少により、同州南中部ガス不足が深刻化している。Excelerate は、FSRU、基地を所有し、全気化容量の排他的所有権を持ち、LNG 供給および地元公益事業企業へのガス販売を担当することになると見込まれる。ガス販売契約は、テイクオアペイ義務付きのインフラストラクチャー支払い要素を有する見込み。商業稼働開始は 2028 年を目標とする。

CIMCSOE (南通中集太平洋海洋工程有限公司 (中集太平洋海工) 社は、2024 年 8 月 21 日、1 隻目の 7,600 m³ LNG バンカリング船舶 (S1061), 船名 "SEASPAN GARIBALDI" をカナダの Seaspan Energy 社に引き渡したことを発表した。このシリーズは 3 隻となり、残り 2 隻は 2024 年末までに引き渡し予定である。同船舶は Bureau Veritas による船級を受け、パナマ船籍となっている。先進型 DC 電力システムを備え、電力供給は複合燃料エンジン 3 基を備える。S1061 船舶は 2023 年 2 月に建造を開始した。今後北米太平洋北西部地域に向けて出航し、Seaspan Energy 社の北米最初の LNG バンカー船舶となる。

New Fortress Energy (NFE) 社は、2024 年 8 月 12 日、メキシコのアルタミラ沖自社最初の Fast LNG プロジェクトにおける最初のカーゴ積み込み、出航を発表した。この最初のカーゴは Energos Princess に積み込まれ、同社の同国 La Paz に引き渡す予定となった。NFE 社は、8 月 19 日、FLNG 設備のメンテナンス停止が完了し、予定通り同日生産に復帰したことを発表した。同 9 日の初カーゴに続いての計画停止だった。

Sempre 社は、2024 年 8 月 6 日、自社同年第 2 四半期業績報告の中で、Energía Costa Azul LNG 第 1 段階建設が 85%完了したが、最近数ヶ月間労働、生産性の問題に直面していることを明らかにした。機械的な完成、LNG 生産開始は 2025 年見込み、SPAs (売買契約) における本格稼働タイミングは 2026 年春を目標としている。

シンガポール企業 LNG Alliance 社の子会社 Amigo LNG 社は、2024 年 8 月 23 日、長期 LNG 供給契約を、マレーシア E&H ENERGY 社と締結したことを発表した。Amigo LNG 社は、年間 360 万トンの LNG を E&H 社に、マレーシア市場向けに 20 年間、2027 年第 3 四半期から供給する。Amigo LNG は年間 780 万トンの液化・輸出設備で、FTA・非 FTA 向け輸出許可を DOE (米連邦エネルギー省) から、2027 年 12 月まで有効に所持している。メキシコのソノラ州グアイマス港隣接に位置している。

GFILNG 社、ヒューストンに本拠を置くクリーンエネルギーインフラストラクチャー企業 Pilot LNG 社は、2024 年 8 月 7 日、メキシコのサリナクルス市に小規模 LNG 設備を開発・建設・操業するためパートナーシップを形成したことを発表した。日量 600,000 ガロン、年間 34 万トンを生産する見通しである。2027 年中盤から年末に稼働開始を見込む。

【中東】

大阪ガス株式会社は、2024 年 8 月 6 日、Ruwais プロジェクトで生産される LNG の売買について、UAE アブダビ首長国の国営 ADNOC 社との HOA (主要条件覚書) を締結したことを発表した。2020 年代後半から、自社・Osaka Gas Energy Supply and Trading Pte. Ltd. への引き渡し DES 条件で年間 80 万トンを購入する。

Technip Energies 社は、2024 年 8 月 1 日、2024 年上半期の決算発表会で、QatarEnergy 社の North Field Expansion (NFE) プロジェクトの建設工事が、第 1 系列について 50%以上進んでおり、最初のシステムについて通電がなされた、と述べた。

カタール QatarEnergy 社は、2024 年 8 月 26 日、クウェート Kuwait Petroleum Corporation (KPC) 社と、同国向け最大年間 300 万トンの LNG 供給に関して 15 年間の SPA (売買契約) を締結したことを発表した。DES (持ち届け ex-ship) 条件にて同国 Al-Zour LNG 基地向けに、QatarEnergy 社の在来型、Q-Flex 型、Q-Max 型 LNG 輸送船舶により、2025 年 1 月から引き渡す。今回の契約は、KPC との間で 2 件目の長期 LNG SPA である。

韓国 GAS Entec 社は、2024 年 8 月 20 日、自社・グループ会社 AG&P、および地元企業 Issa Haddadin 社が、ヨルダン王国アカバ港 Sheikh Sabah Al-Ahmad Al-Jaber Al Sabah 陸上 LNG 気化基地プロジェクト EPCIC (エンジニアリング・調達・建設・設置・コミッションング) 契約を受注したことを発表した。この入札は、同国国有企業 Aqaba Development Corporation (ADC) により実施された。プロジェクトは陸上 LNG 気化設備、海洋部分、棧橋上部構造、関連諸設備から構成され、22 ヶ月間以内で完成、試運転、引き渡しを求められている。

【アフリカ】

ナイジェリア Nigerian National Petroleum Company (NNPC Ltd.) 社は、2024 年 8 月 26 日、LNG カーゴの日本、中国向け DES (持ち届け Ex-Ship) 条件での出荷を開始した、と発表した。初の DES LNG カーゴは、富津向けに 6 月 27 日引き渡された。以降 NNPC 社は、中国向けにも 1 カーゴを DES 条件で引き渡した。NNPC LNG 社は、NNPC Shipping 社と協力し、11 月までにさらに 2 カーゴを DES 条件でアジア市場に引き渡す予定である。

bp は、2024 年 7 月 30 日、第 2 四半期業績報告会にて、モーリタニア・セネガル沖 Tortue FLNG プロジェクトに関して「順調に進展」しており、今後 3-4 ヶ月間に、圧力試験等を実施するため、システムにガスを導入することを検討している、と述べた。参加企業 Kosmos Energy は、8 月 5 日、自社の同年第 2 四半期業績報告中、Tortue FLNG プロジェクトは、同月プレコミッションングカーゴ 1 隻を受け入れる計画であると述べた。同発表によれば、LNG 生産開始は同年第 4 四半期に見込まれる。

Golar LNG 社は、2024 年 8 月 5 日、自社と、Greater Tortue-Ahmeyim LNG プロジェクトのオペレーターとしての bp 社が、FLNG Gimi に関しての商業条件刷新実行

のための諸契約を締結したことを発表した。

モザンビーク大統領は、2024 年 8 月 15 日、ExxonMobil との会談は Rovuma LNG プロジェクトの初期エンジニアリング段階に焦点を置き、計画では 2026 年までに諸承認を最終的なものとして、FID (最終投資決定) を行うものとしている。

[欧州・周辺地域]

エネルギーインフラストラクチャー企業 VTTI 社は、2024 年 8 月 9 日、英 Dragon LNG 社の株式 50% の買い取りを完了したことを発表した。同基地の残り 50% は Shell 社が所有している。Dragon LNG 社は、VTTI 社にとり、2024 年 4 月に発表し、同年未完了が見込まれるイタリア Adriatic LNG 基地 70% 持分買い取り計画に続く 2 件目の LNG 受入基地投資である。

オランダの上流部門開発・生産企業 ONE-Dyas 社は、2024 年 8 月 14 日、ドイツのニーダーザクセン州当局が北海ドイツ領海内 No5-A ガス田、周辺有望地域開発の許可を発行したことを発表した。ONE-Dyas 社は、これにより北海でのオランダ・ドイツエネルギープロジェクトの両国の承認を全て揃えたこととなる。ONE-Dyas 社は 2024 年末までに両国市場への天然ガス供給開始を目指している。No5-A プラットフォームは 8 月 6 日にオランダ領海内に設置済み。ドイツ領海内の Riffgat 沖合風力発電設備より動力供給を受ける。

米財務省は、2024 年 8 月 23 日、7 隻の LNG 輸送船舶を標的とした制裁を発表した。ロシア Arctic LNG 2 設備から最初の 2 カーゴを出荷したと目される Pioneer、Asya Energy が含まれる。他は、これら 2 隻同様インドの Ocean Speedstar Solutions 社に登録されている Everest Energy、Novatek 社が備船している新造船 North Air、North Mountain、North Sky、North Way が含まれていた。

[南米]

アルゼンチン YPF 社、マレーシア Petronas 社は、2024 年 7 月 31 日、容量年間 3000 万トンの Argentine LNG 輸出プロジェクトに関して、リオネグロ地方 Sierra Grande 区域に立地することを決定したことを発表した。

McDermott 社は、2024 年 8 月 12 日、Shell Trinidad and Tobago 社より、トリニダード・トバゴ南東沖 100 km の Manatee ガス田開発プロジェクトの、EPCI (エンジニアリング・調達・建設・設置)、接続、コミッショニング契約を受注したことを発表した。この受注は、プロジェクト初期設計・実行計画のための FEED (基本設計)、詳細エンジニアリング、要長期項目調達業務契約履行に続くものとなる。

bp 社は、2024 年 8 月 27 日、bp Trinidad and Tobago (bpTT) 社、EOG Resources Trinidad Limited (EOG) 社が、Coconut ガス開発で組むことに合意したことを発表した。50/50 合弁事業で EOG がオペレーターとなる。FID (最終投資決定) 済でガス生産開始は 2027 年を見込む。同ガス田は、トリニダード南東沖 Columbus 盆地に位置し、2005 年 bpTT

により発見された。Coconut は両社間の合弁事業で取り組む最新の開発案件となる。

マレーシア PETRONAS 社は、2024 年 8 月 8 日、スリナム第 52 鉱区で 6 月に掘削した Sloanea-2 評価井で成功となったことを明らかにした。PETRONAS 社は、同ガス田について、FLNG (浮体 LNG 生産) プロジェクト開発の可能性にも言及した。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp